

号外

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2019.9.21

目次

第 62 回建築士会全国大会
 『北海道大会』開催……………1
 交流セッション ………………2
 交流セッション ………………3
 建築士フォーラム、HM総会……………4

編集・発行：(一社)北海道建築士会
情報委員会

URL <http://www.h-ab.com/>

リクロスみらい

『Re + 明日のまちに輝きを』

令和元年 第 62 回建築士会全国大会

『北海道大会』函館市にて開催！

令和最初の大会となる、第 62 回建築士会全国大会『北海道大会』が 7 紙の記者を迎え、20 日の記者会見を皮切りにスタートした。ここでは、三井所連合会会長より大会の概要、セッションの説明及び直近の建築士に関わる各種改正や情勢等を話された。

続いて高野道士会会長より北海道大会について、山内函館支部長・大会実行委員長よりテーマについての説明があった。



大会は、参加者約 2,900 名が 8 つのセッションで熱い議論をくりひろげた。式典は、江差追分のオープニングに始まり、高野道士会会長より歓迎の言葉と共に昨年の胆振東部地震で全国のご支援に感謝の言葉があった。今年は北海道命名から 151 年、函館港開港 160 年、第 50 回全国「帯広」大会から 12 年。テーマの由



来と共に本大会で皆さんとの交流、士会の魅力の再認識等の機会を期待された。三井所連合会会長からは、ご出席の皆様へご挨拶とこれからの建築士会の役割の重要性を強調された。

淡野国土交通省大臣官房審議官、堂本林野庁北海道森林管理局长、鈴木北海道知事、工藤函館市長、全大韓建築士協会副会長をはじめ多くの来賓をお迎えしご祝辞いただいた。

表彰式では合わせて 177 名の方が表彰された。

記念講演

“Between Nature and Architecture” 藤本壮介氏
株式会社 藤本壮介建築設計事務所 代表

北海道出身の藤本氏は東京大学工学部建築学科卒業後、2000 年に設計事務所を設立。数々の国際コンペで素晴らしい業績をもつ。今講演では「ラルブル・ブラン(白い木)」バルコニーが枝状に突出して、まるで 1 本の大木の様に見える集合住宅や、「ミル・アルブル(1000 本の樹)」地上と屋上に木々を植えて自然と建築を融合させた複合施設等様々な空間グリッドを持つハイブリッドな建築物の紹介を受けた。どれも空間



をプロジェクトした建築であり、建築物の近未来化が伺える記念講演であった。

青年委員会セッション

地域実践活動発表会

本セッションでは、全国の青年建築士の活動をブロックごとに選出し、「地域実践活動発表会」を開催した。防災・環境・福祉など地域コミュニティ事業、スキルアップに繋がる事業など様々な観点での発表がなされた。全国各地 7 ブロックより、各地の気候風土歴史等が身近に感じられる素晴らしい発表であった。その後テーブルディスカッション・パネルディスカッションで全国の青年建築士が一丸となった。最後の投票では、中四国ブロックが最優秀賞であった。これからの建築士・建築士会を担う青年建築士の発表はたくましいものであった。



景観・街中セッション

空き家等の適正管理と利活用による景観の向上

近年、空き家が各地で管理されず放置され周辺環境や景観に悪影響を与えている。セッションの初めに米村部会長から趣旨説明があり、次に北海道の後志支部、奈良県の橿原支部、大分県の国東支部から空き家対策の事例報告があった。その後のシンポジウムでは『どうすれば適切な管理が維持できるのか』『空き家を如何に早く流通させることができるのか』『除去後の空き地の景観をどのように誘導するのか』について建築士、建築士会としてなにができるかを話し合った。問題解決には沢山のハードルはあるが良い事例を参考に今後も取組みを広げることとなった。



女性委員会セッション

和の魅力を探る・・・ふたたび

「和の空間」をテーマに 4 回目は昨年発行の「魅力ある和のガイドブック WEB 版」の活用に向けてパネルディスカッション。4 士会のパネリストがその魅力を語った。岩崎氏（北海道）函館大火、開拓史と和洋折衷、積雪寒冷地の工夫。近藤氏（青森）和の空間に女性視点の意匠とくらし。近藤氏（福岡）華やかさと力強さの調和と継承。野口氏（広島）和の様式の多様性と保存の難しさ。意見交換では女性建築士の視点を大切に、設計活動へ応用、地域と連携、和の魅力の伝承等、明日（みらい）への広がりやガイドブック活用への期待が高まった。



福祉まちづくりセッション

『全国の観光バリアフリーと建築士について』

ハード整備とソフト対応のわかる建築士の育成

バリアフリーの観光地、地域づくりにおける建築士の役割
第 1 部に全国建築士会の福祉まちづくり活動として、やさしいまちづくり（UD のまちづくり）（高齢者等の住まいづくり）関連の報告がなされた中、長崎県 PR による軍艦島観光までバリアフリー化されていることには驚いたところです。

第 2 部にセッション・プログラムでは、バリアフリー観光の趨勢と官公庁（国）の施策の紹介、バリアフリーの観光地づくりに向けて建築士にできることの事例紹介、『バリアフリー観光地づくりを加速する制度的な枠組みは？』をテーマとして田中氏、鈴木氏、



佐藤氏、中山氏の 4 名によるディスカッションが行われた。

情報部会セッション

建築士と AI（人工知能）との付き合い方 ～映える建築士のデバイス活用術～

もはや社会問題となっている「人材不足」は、建築士にとっても喫緊の課題。セッションでは、AI とは何かという原点から学び直し、作業効率を上げるためのデバイス活用例などの情報を共有した上で、参加者 40 名全体でのディスカッションを通じて、改めて建築士としての職能、地域社会への貢献などについて再考・再認識した。



歴史まちづくりセッション・第 7 回 HM 大会

「歴史的建物を使い続ける ～持続する地域・まちづくり～」

本セッションは「歴史的建物を使い続ける」をテーマに第 7 回 Heritage Manager 大会として、花びしホテル 2 F 芙蓉の間にて開催された。大会趣旨説明の後、北海道 3 地域 5 名のパネリストがそれぞれ下記の歴史的建築物について紹介を行なった。

- ・富田氏(道北) 稚内の歴史的建築物
- ・佐々木・東田氏(道東) 中標津伝成館
- ・川村氏(道東) 帯広・重文指定「旧双葉幼稚園」
- ・富樫氏(道南) 函館西部地区

事例紹介後には歴史的建築物の活用にかかる建築士以外の職種の関わり方について意見交換が行われた。最後に副会長の沢田氏より、建築士とその他の多様な職種との連携が見えるセッションだとの講評があった。



防災まちづくりセッション

事前防災活動指針や風水害復旧マニュアルの Re+

本セッションの目的は、策定済みの「事前防災活動指針」や「風水害復旧マニュアル」について、事例報告や課題共有から内容を拡充すること。

3 つの事例報告（ 応急木造仮設住宅、 仮設住宅の配置計画、 豪雨災害時の取組み）を受け参加者からは、仮設住宅団地の他、敷地内の”在宅避難”として誰でも作れるような仮設住宅の提案、などの意見が述べられた。

最後に、大切なことは行政や地域との”普段付き合い”。家族を守りたい気持ちは一緒なので始めればネットワークは広がるはず、そんな地道な活動が士会には求められている。と、まとめられた。



環境部会セッション

「SDGs の環境まちづくりに向けて～自治体主体で低炭素型定常社会をつくりあげる～」

まずは中村氏から SDGs について説明されました。持続可能な開発目標 (SDGs) として 2001 年に策定され、ミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで採択され「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年～2030 年までの国際指針です。接続可能な世界を変えるための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓い発展途上国及び先進国自身に取り組むユニバーサルなものであり、単位建築士でも活動が行われています。以下の 3 名（高木氏、春日氏、山本氏）を含めた意見交換では糸永氏が会場とも橋渡しとなり意見を集約。総括には篠氏が、感謝の意を述べられ終了しました。



全国建築士フォーラム（20 日）

『未来を切り開く情報発信能力の向上を!』

～青年建築士式 函館路面電車サイコロの旅～

第 10 回目となるフォーラムは、3 部構成。まずは、人気番組「水曜どうでしょう」でお馴染みのサイコロの旅をフィールドワークとして実施。各グループは、旅の発見を SNS に投稿し、第 2 部のワークショップで意見交換。SNS アドバイザー 竹村真奈美さんから助言をいただきながら、情報発信能力向上のヒントを学んだ。締めめの第 3 部、懇親会では、函館名物？マゲ口の解体ショーで大いに盛り上がり、お約束の第 4 部へ・・・



物産コーナー『ともえ広場』

屋外の「ともえ広場」では、函館及び北海道のうまいものの屋台が出店し、参加者も舌鼓を打っていた。



編集後記

まず、先日の台風並びに度重なる豪雨災害の被災者へ謹んでお見舞い申し上げます。最大の懸念であった天候にも恵まれ、無事第 62 回全国大会「北海道大会」が開催できたことに安堵しています。

皆様、北海道大会いかがでしたでしょうか？「え！？本当の楽しみはこれから？」存分にお楽しみいただいております。

全国 HM 総会・見学会

全国 Heritage Management ネットワーク協議会総会(以下、全国 HMN 協議会総会)の前に歴史的建造物見学会が開催され、セミナー後、函館西部地区のまちあるきが行われた。その後、金森ホールにて全国 HMN 協議会総会が開催された。報告事項として講習会の実施や活動ネットワーク組織の立上げ、規約の改正などが報告され、協議事項として HM と各单位士会に期待される役割や全国 HMN 協議会等の方向性などを協議し、閉会した。その後、大交流会が開催され、参加者たちは親睦を深めた。



記念展示、企業ブース

アリーナ 2 階回廊では連合会並びに本道建築士会、表彰者等の記念展示がなされており、熱心に見入る参加者もあった。また、本道士会活動に並々ならぬ御協力を頂いている、東西アスファルト事業協同組合様をはじめ、26 の企業による出店展示がなされた。



編集発行 / 北海道建築士会情報委員会

情報委員会委員長 / 斎藤 勝哉

副委員長 / 早川陽子・森 勝利・前田 繁

委員 / 熊谷 智・柏倉晶憲・村山賢司・片岡哲二

協力 / 高松徹